

2020年度薬学部FD委員会活動報告

1. 薬学部FD・SDフォーラム

第1回と第2回のFD・SDフォーラムをそれぞれ4月2日と9月2日に開催した。対象の教職員の参加率はそれぞれ95.2%と94.0%と極めて高かった。本フォーラムでは、2020年度における薬学部の課題や学部運営の方針等が示され、これらに基づき教員は教育力を向上させ事務職員と連携して円滑な教育体制のもとに学部運営を行った。

2. 授業アンケートおよび授業アンケートを活用した教員表彰

前期7月27日～8月9日、後期12月7日～12月20日の期間にwebによる授業アンケートが実施された。薬学部の授業アンケート実施科目について、科目担当教員に、学生の自由記述欄に記載されたコメントに対してweb上で回答するよう依頼した。また、薬学部FD委員会にて制定した内規に基づき2019年度の授業アンケートを活用した教員表彰を行った。さらに2020年度についても同様に被表彰者を決定した（2021年度第1回薬学部FD・SDフォーラム内にて表彰予定）。

3. 薬学部FDワークショップ

コロナ禍の終息が見渡せない中、今後の講義は徐々に従来のスタイルに戻るにせよ、しばらくの間は遠隔講義を取り入れざるを得ず、学生の学習効果や理解度、満足度の高い遠隔講義の構築が喫緊の課題となってきた。このような背景を鑑み、今年度はFD活動として今回の経験から得られた遠隔講義の利点および改善点を教員目線、学生目線から抽出・整理し、学生にとってより良い遠隔講義を行うための講義方法や課題の出し方、評価方法などを考え、各教員の授業改善・教育改善に繋げることを目的としたワークショップを企画し、2020年8月7日（金）に開催した。今回は、薬学部対象教員のうち、49名の教員（参加率65%）と事務職員1名が参加し、「学生にとってより良い遠隔講義の在り方」について8つのグループに分かれて、教員の考える遠隔講義の利点・欠点の抽出と、学生アンケートから得られた遠隔講義の利点・欠点を包括的に整理し、より良い遠隔講義を行うための改善点を作成・発表し、教員間で共有した。「学生にとってより良い遠隔講義の在り方」について情報共有できたことは、差し迫った後期の講義をより質の高いものにするだけでなく、さらに今後の講義へ活用できる新たな「気づき」も得られたことは本ワークショップの大きな成果である。今後、本ワークショップでの成果を教員が各自の授業改善・教育改善へとつなげ、学生の満足感と教育効果の高い授業を展開されることが期待される。

4. 発達障がいに関する講演会

近年、大学において不適応行動や精神症状を認める学生の背景には、発達障がいが存在することが注目されている。本学においても、学生の学外実習等におけるトラブルの背景には、発達障がいが存在する可能性が高く、そういった学生の心のケア・支援を適切に行うためには、発達障がいについての教職員の理解が重要であると考えられる。このような背景から、薬学部FD委員会のFD・SD企画として、関西医科大学小児科 教授 石崎 優子先生をお招きし、2020年11月11

日(水) 17時00分～18時30分に8210講義室(枚方キャンパス 8号館2階)において、発達障がいに関する講演会(講演タイトル:発達障がい学生が抱える問題)を開催した。本講演会には、薬学部教員59名、看護学部教員11名、農学部教員13名、事務職員17名および大阪工業大学教員3名が出席し、発達障がい学生が抱える問題を理解する上で非常に有意義な研修の場となった。

以上